
サメ惑星

愛・武者修行

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

サメ惑星

【Nコード】

N4475BA

【作者名】

愛・武者修行

【あらすじ】

サメが陸で暮らす惑星です。

ここは、サメが進化して陸に上がり人間は海で暮らしている星。

「なあ、今日も人間を捕ってこようぜ」ホオジロザメ人間の健二が言う

「健二の兄貴、いいつすねー。人間の目玉のソテーでも食べますか」メジロザメ人間の正がそれに答える。

二人は、海へ行き漁船に乗り、人間を釣りに行った。

海には60億人以上の人間が世界各国の浅瀬から深海にいたるまで、様々な場所で暮らしている。

「これから行く場所は俺の秘密の穴場だぜ」そう言っつて、健二の兄貴は正を連れて行った。

しばらく、荒れ狂う波を横切り秘密の場所に到着した。

人間一本釣り、次々と人間は上がって行った。もう、老若男女20人は釣れただろうか。

「ヒヤッハー！ 今日のご飯は豪勢になりそうだ」健二は顔を紅潮させて、叫ぶ。

「た、助けてちょんまげ」30代と思われる人間の男が、懇願する。

「やだねったら、やだねっ！」正が演歌を歌いながら、愉快そうに言う。

その時!!! 船が近づいてきた。

「あれは、密漁船！」健二が憤怒の顔で言った。

密漁船は船を横付けし、様々なサメ人間が船に乗り込んで来た。

そして、先ほど捕まえた人間全部を持って行ってしまった。

健二は銃を取り出した。その銃はサメ人間専用の銃だ。サメの歯が弾になる。

健二は自分の歯を抜いて銃に込めた。歯はサメなのでまた生えてくるので、心配ない。

そして、銃を乱射した。

しかし、時既に遅し。密漁船には届かなかった。
「くーやしー」二人は、はもって言った。
これが、この星の日常風景だ。ちゃんちゃん。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4475ba/>

サメ惑星

2012年1月12日01時01分発行